

# 若手起業家の挑戦

～オンラインで企業と学生を橋渡し。  
コロナ禍で脚光を浴びるプロッセルの躍進に期待!～

世界中が新型コロナウイルスに揺れる最中の昨年6月、横山和輝社長は長岡市で「株式会社プロッセル」を立ち上げました。同社のオンラインを活用した就活イベント「オンコン」は、コロナ禍において採用・就職活動に悩む企業と学生の双方から大きな支持を受け、今や県内外から熱い注目を集めています。今回は会社経営の傍ら大学院の学生として多忙な日々を送る横山社長から、起業に至った経緯や今後の抱負などについてお話をうかがいました。

## オンコンのコンセプトは、企業と学生の橋渡し

▶プロッセルの看板事業となった「オンコン」とはどのようなイベントですか

当社が現在主力としている事業のひとつが、オンラインを活用した就活イベント「オンコン」の企画運営です。コンセプトは新卒採用に関心を持つ企業と就職を控えた学生の「橋渡し」にあり、ビジネスコンテスト（ビジコン）を通じて、企業と学生が互いに理解を深め合うことを目的としています。

オンコンの具体的な流れとしては、まず企業から「自社の新規事業に対する提案」などの課題を提起していただき、学生は数名のチームに分かれて10日間程度で課題解決に向けたビジネスプランの策定に取り組みます。最終的には各チームから成果をプレゼン形式で発表してもらうのですが、最大の特徴はその間のすべての過程をオンライン上で可視化していることにあります。これにより、企業からは学生の適正や能力を確認していただき、学生からは自己アピールと合わせて自身の長所・短所等を認識してもらうことが狙いです。特に学生に対しては、結果だけにこだわるのではなく、「過程＝プロセス」も「提示＝セル」して欲しいとの想いを込めて、社



## PROFILE

**横山 和輝**（よこやま かずき）

株式会社プロッセル代表取締役社長。新潟市東区出身、1998年生まれ。国立長岡工業高等専門学校在学中に留学先であったフィンランドのビジネスコンテストで優勝。帰国後に学生団体プロッセルを発足、2020年3月に同校専攻科を修了した直後の昨年6月に「株式会社プロッセル」として法人化。現在は会社経営を行いながら新潟大学大学院現代社会文化研究科に在籍し、マーケティングやマネジメントを勉強中。

名をプロッセルと名付けました。

## 自社開発ソフトはオンコンのプラットフォーム

▶オンコン以外では、どのような事業に取り組んでいるのですか

当社が手掛けるもうひとつの事業は、ソフトウェアの開発です。自社開発のチャットツール「Procell Community」は、チャットの内容をAIで解析・分析することが可能であり、オンコンの開催に不可欠なプラットフォームとなっています。

このソフトではオンコンにおける学生の活動状況を解析して各人の特性やスキル等の分析を実現しており、就職活動における適性検査のような役割を果たしています。

## 起業を決意したきっかけは海外でのビジコン優勝

▶起業しようと思ったきっかけは何でしたか

私は長岡高専専攻科1年生（大学3年生）の時に1年間ほどフィンランドに留学していたのですが、その際に課外授業の一環で現地のビジコンに参加する機会がありました。

当時はビジコンへの参加経験など皆無でしたが、参加する以上は面白いプランを作りたいと考えて、

就職活動をテーマにアイデアを練りました。海外で日本の就活に問題提起するというプランであったにも関わらず、オンラインを活用して企業と学生をつなぐというアイデアが審査員から評価され、私のプランは優勝を果たしました。この時にはじめて私は起業という道を意識するようになり、帰国後間もなく学生団体を設立して、ビジネスプランの事業化をスタートさせました。

## コロナ禍でオンコンのニーズが急拡大

### ▶事業は最初から順調に進んだのですか

学生団体として2020年1月に開催した第1回目のオンコンは、大失敗に終わりました。参加者は十分に集まり、運営自体もスムーズでしたが、盛り上がりがなく終わってしまったのです。

この失敗で、私は起業を断念して海外の大学院に進学することも考えました。しかし、ちょうどその頃から新型コロナウイルスの感染拡大がはじまると、4月には緊急事態宣言が発出される事態となりました。コロナ禍で世の中が一斉にオンラインに移行していく様子を目の当たりにし、「オンラインで企業と学生を橋渡しするというアイデアは今こそ社会の役に立つのではないか」と思い立って、再チャレンジを決意しました。

そして急遽4月に開催した第2回目のオンコンは、コロナ禍でインターンシップ等の対面式の就活が困難になるなかで企業と学生の双方から大きな支持を受け、短期間での募集・開催となったにも関わらず成功裏に終えることができました。この成功を基に私は起業家としての人生を選択することを決め、昨年6月にプロッセルを設立したのです。

## 数々のビジコンで高評価を獲得

### ▶ビジコンでの受賞が続いていますね

おかげさまで、昨年10月に新潟ベンチャー協会（略称：NVA、渋谷修太代表理事ほか）が主催した「第1回NVAピッチ」で準最優秀者に選出して



活動の拠点を置くCLIP長岡(新潟県起業支援センター)での勤務風景

いただいたのに続き、今年1月に新潟ベンチャーキャピタル（永瀬俊彦代表取締役）とベンチャリング・ラボ（新潟大学経済科学部 伊藤龍史研究室内）などが主催した「ジャパンビジネスモデル・コンペティション新潟ラウンド2020」では、栄えある新潟代表に選出していただきました。

学生時代からのビジネスプランを評価してもらったことはもちろん嬉しかったのですが、それ以上にビジコンを通じて県内外の先輩起業家や企業経営者の方々と知り合えたことを有難く感じています。

## 地域や企業が抱える課題解決の手助けを

### ▶今後はどのような事業展開を考えていますか

オンコンに関しては、これまで月1回のペースで開催を続け、累計の参加者数は全国1,000名を超えました。今後も継続的な開催を予定していますが、現在はオンコンのプラットフォームである「Prossell Community」をバージョンアップする必要性を感じています。今年度中には解析・分析機能に改良を加え、近い将来にこのソフトの用途をオンコン以外の分野にも広げていきたいと考えています。

例えば、オンコンが目的とした企業と学生の橋渡しと同様に、例えば人口流出に悩む地方都市と都会に住む若者を繋いだり、後継者不足に悩む企業と起業意欲を持った若者をマッチングさせるなど、当社のプラットフォームが様々な社会課題の解決に応用できる可能性を感じているからです。こうした地域や企業が抱える課題解決のお手伝いを通じて、地元である新潟から地域の活性化に貢献を果たしていけたらと思っています。

（2021年4月14日 生亀、神保）